

会員の皆様へ

今大会を東京で開催のはこびとなり、お世話できますことを関係者一同たいへん光栄に存じます。

全国から参加される皆様の交通の便利なところで、本学会にふさわしい場所を選定することに多くの調査時間をかけました。幸運にも東京の現状では最善の場所で開催できることになったのではと感謝しております。

大会運営、プログラム編成方針として、

1. できるだけ多くの会員の方に何らかの形で大会に参加していただけるように多くの機会を提供する。やむを得ない場合を除き重複出演を避けると同時に客観性をもたせる。
2. いろいろな分野の集合した heterogeneous な学問研究集団として各分野をできるかぎり尊重する。
3. 本学会員の貢献、研究成果を中心にプログラムを編成する。
4. 本学会の発展の方向性を考える機会を提供する。

を念頭に置き、心がけたつもりですが十分とはいええないかもしれません。

過去 1 年の間に進展した研究成果のうち影響学会会員の果たした役割の大きな分野を中心に特別企画、シンポジウム、ワークショップ等を準備いたしました。特記すべきものとしては、アンケートで最も要望の大きかった JCO 事故に関するもの、及びこの 2、3 年間で本学会員の貢献の大きかった分野として放射線感受性に関連する多くの研究があります。一方、自分達と専門の異なる分野については、日頃の研究活動の内容について知識・情報に限界があり、アンケートや演題投稿等に参加していただいた学会員の御意見に依存することとなりました。

プログラム編成のためとはいえ、シンポジウム等の企画や座長の推薦、大会運営等について準備委員会委員・前及び前々大会事務局の方々をはじめ非常に多くの皆様の御協力を頂き、ありがとうございました。

多くの皆様の参加により影響学会の各分野の研究活動が発展するきっかけとなることを希望いたします。

2000 年 8 月

日本放射線影響学会第 43 回大会

大会長 鈴木 紀 夫